

加美町総合計画策定及び加美町まちづくり基本条例策定に係る

# まちづくりワールドカフェ 第1回 <町民意見等のまとめ>

ワールドカフェとは、“カフェ”にいるようなリラックスした雰囲気の中、参加者が少人数に分かれたテーブルで自由に対話を行い、ときどき他のテーブルとメンバーをシャッフルしながら話し合いを発展させる、会議や討議の一形式です。

主 催：加美町  
運営支援：宮城大学地域振興事業部

## 【全体概要】

### 1. 目的

加美町総合計画及び加美町まちづくり基本条例に係る町民の意見・提案を効果的に集約し、今後の検討の参考資料とするために、一般向けと中高生向けの『まちづくりワールドカフェ』を企画・実施した。

第1回では、加美町総合計画の検討に向けて、10年後のありたい姿や施策の方向性、取組アイデア等に関する町民の意見・提案を集約した。

2. 日時 平成26年10月11日(土)13:15～16:00

3. 場所 加美町中新田交流センター

4. 対象 一般：24名 各種団体の推薦者等(6人×4テーブル)  
中学生：6名 学校の推薦等(2人×3校)(6人×1校)  
高校生：6名 学校の推薦等(6人×1テーブル)

### 5. 内容

(1)まちづくり講演 /参加者44名

■講師 風見 正三(宮城大学事業構想学部教授・副学部長)  
～地域資源を活かした持続可能なまちづくり～

(2)まちづくりワールドカフェ /参加者32名

■テーマ 加美町の『10年後のありたい姿』を思い、描く  
～みんなでまちづくりアイデアを出そう!!～

## (1) まちづくり講演

■ 講師 風見 正三

(宮城大学事業構想学部教授・副学部長)

～地域資源を活かした持続可能なまちづくり～

### 【骨子】

まちづくり講演では、「地域資源を活かした持続可能なまちづくり」と題し、「震災復興に向けた社会経済システムの構築」や「地域資源を活かしたまちづくりの実践」、「地域の真の豊かさの創造」、「commonsの視点による地域資源経営の実践」などの考え方や取組等に関する話題が提供された。

1. 震災復興に向けた社会経済システムの構築
  - ・持続可能な地域づくりの原点
  - ・持続可能な地域システムとしての里山
  - ・新しい協働社会の時代的背景
  - ・社会的共通資本の視点と地域再生
2. 地域資源を活かしたまちづくりの実践
  - ・地域資源とは何か
  - ・地域資源を活かしたまちづくり
3. 地域の真の豊かさの創造
  - ・持続可能な地域産業としての農業
  - ・地域力による持続可能な里づくり
  - ・都会力による持続可能な里づくり
4. commonsの視点による地域資源経営の実践
  - ・東松島市・森の学校プロジェクト(事例紹介)
  - ・持続可能な東北、持続可能な未来を目指して



講師の風見正三氏  
(宮城大学事業構想学部教授・副学部長)

## (2) まちづくりワールドカフェ

■ テーマ 加美町の『10年後のありたい姿』を思い、描く  
～みんなでまちづくりアイデアを出そう！！～



## Aテーブル

### 【概要】

Aテーブルは「環境の視点」に着目し、自然と共に暮らすにはどうすれば良いか話し合い、その結果、以下のような意見や提案が出された。

加美町は薬菜山から流れるきれいな水に恵まれ、多様な生物棲息環境を維持するとともに、米作りや酒造り、川遊びなど、自然を守ることで様々な恩恵を受けている。

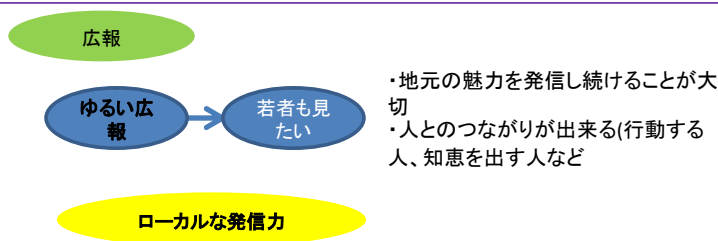
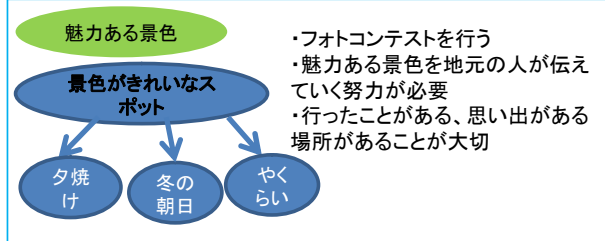
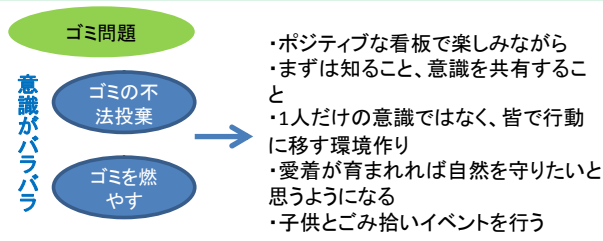
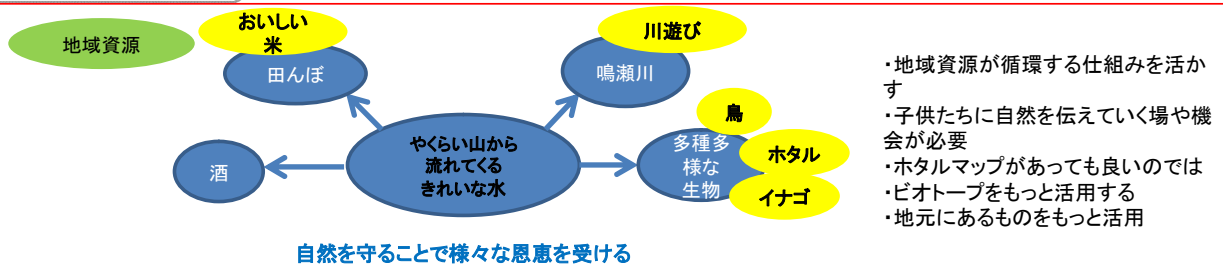
また、魅力のある景色(スポット)も多く、これらの地域資源を地元の人が伝えていく努力が必要である。

さらには、ゴミ問題等に対処していくため、地域への愛着を育み、一人ではなくみんなで行動に移すための環境作りや広報活動の強化が大切である。



## Aテーブル

### 「環境の視点」～自然と共に暮らすには～



- 地域の人のかき付け作り
- 楽しみながら自然と暮らす
- 仲間づくりをする

【概要】

Bテーブルは「福祉の視点」と「教育の視点」に着目し、安全で安心して暮らすにはどうすれば良いか、地域を支える人材を育てるにはどうすれば良いか話し合い、その結果、以下のような意見や提案が出された。

お年寄りと子どもをつなぐ仕組み作りに関して、お年寄りは知恵の宝庫であり、こうした人材を教育の場に活かしていくことで高齢者の生きがいや新しい働き方の提案につながるものと思われる。

一方、今の子どもたちは忙しく、地域と関わる時間がないが、子どもたちに町に残りたいと思わせるような取組や環境づくりが大切である。

具体的には、「技の人材バンク」や「放課後授業」、「男性料理教室」など、福祉と教育をつなげるような取組が提案された。



「福祉の視点」～安全で安心して暮らすには～

「教育の視点」～地域を支える人材を育てるには～

お年寄りと子どもをつなぐ

子ども

- ・子供は塾やスポ小等で忙しい、地域と関わる時間がない
- ・子供に残りたいと思わせる地域づくりをしたい
- ・子供が安心して暮らせる町にしたい
- ・子供を取り巻く環境づくりをしたい

高齢者

- ・高齢者は知恵の宝庫。
- ・人材を活かして教育環境
- ・お年寄りの生きがい
- ・新しい働き方の提案が必要



- ・町民バスの充実
- ・「技の人生バンク」...お年寄りが先生になり、子供に農作業や暮らしの知恵を教える
- ・子供と高齢者による放課後授業(語学、音遊びなど)
- ・高齢者を段階に分けて見守り(声掛け)システムを作る
- ・登下校の見守り
- ・お茶飲みサロンを作る
- ・意見交換の場づくりをする。子供を安心して育てるにはどうするかという話し合いをする。
- ・「老人クラブ」という名前はどうなのか...

男女共同

- ・一人暮らし世帯では、男性の自立が課題になる。
  - ・元気なうちに自分の身の回りのことを自分で行えるようにする
  - ・男性対象の料理教室→男性の自立
- 《結婚して子供を産み、育てる社会づくり》



【概要】

Cテーブルは「産業の視点」に着目し、新たな雇用を生み出すにはどうすれば良いか話し合い、その結果、以下のような意見や提案が出された。

地域の再生はつながりの再構築である。また、そのために地域資源力や地域自治力、地域経営力を高めることが何よりも大事である。各資源・産業の連携により、交流人口を拡大し、経済の好循環につなげる。

農業においては、隠れた美味しいものの発掘や食文化ごとの売り込み、デザイン性の工夫、ふるさと納税の活用等の取組が考えられる。

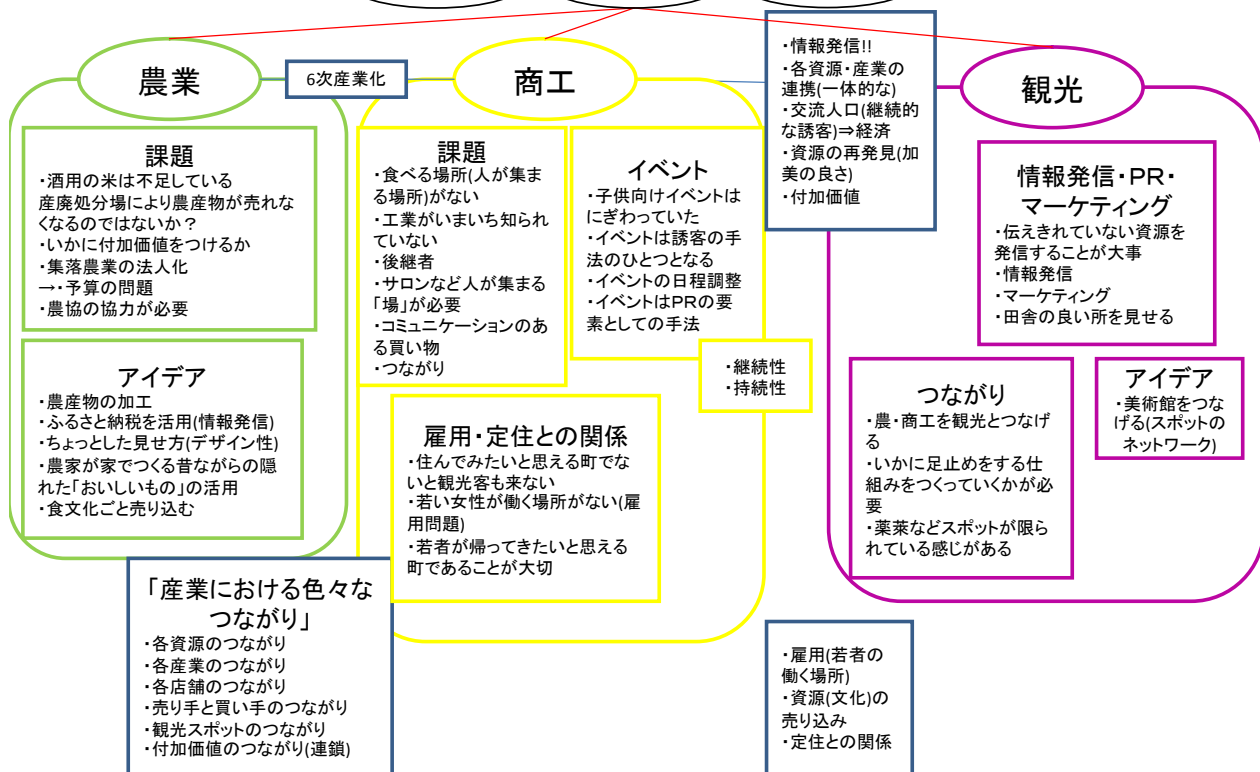
商工においては、女性・若者の働く場の確保や子ども向けイベントの開催など、農と観光と商工をつなげる視点で取組を展開する。

観光においては、伝えきれていない資源を発信することが大事であり、情報発信・PR・マーケティングの強化が必要である。



『地域の再生＝つながりの再構築』

地域資源力 × 地域自治力 × 地域経営力



【概要】

中学生チームは「住んでいいまちになるには」と「訪ねていいまちになるには」という二つのテーマに関して話し合い、その結果、以下のような意見や提案が出された。

将来の姿では、自然や環境、食に恵まれ景色が良いまち、清潔で明るく、楽しそうなまち、子どもが元気なまちなどがイメージとして浮かび上がった。また、加美町の雰囲気の良いとして、運動会の盛り上がりや帰り道での近所の人々の声掛け、学校行事に地域の参加など、地域の連帯に関する意見が見られた。

また、要望としては、バス等の公共交通の充実や子供でも気軽に入れる施設の整備、他の中学校との交流拡大(生徒会サミット)、スポーツイベントの開催等を望む声が多かった。



中学生チーム

食

- 米
- 葉菜わさび
- わさびアイスリーム
- さばいキャベツ
- 山菜
- 金村屋のラーメン
- かさ松の肉団子
- あざりのワッフル
- 葉菜ビール
- ブルーベリーゼリー
- まるだいのラーメン

環境

- 葉菜山
- 葉菜山ガーデン
- 金色の秋の水田
- 荒沢の水芭蕉
- 鳴瀬川
- 光のトンネル

公共への要望

- バスの本数が少ない
- 移動手段を増やして欲しい
- 公共の施設がもっときれいだと言いたい
- 公共交通機関が発達していると良い
- 歩道の除雪もしてほしい

施設への要望

- 子供でも気軽に入れる施設が欲しい
- 図書館の本を増やして欲しい
- パッハホールをもっと有名にした方が良い

環境への要望

- ゴミが落ちてない町だと良い
- 町のみんながごみを捨てるのが良い
- 道路の脇に花を植えて欲しい

中学校への要望

- 生徒会サミットがしたい(大崎市では行っている)
- 他の中学校との交流を増やしたい
- 学校の楽器が古い

将来の姿

- 景色のよい町
- 自然が豊かな町
- 清潔な町
- 環境が豊かな町
- 食に恵まれた町
- 食べ物がおいしい町
- 明るい町
- 楽しそうな町
- 子供が元気な町
- 仲が良い、喧嘩が少ない

雰囲気

- 学校周辺のゴミ拾い
- 非行防止キャンペーン
- 運動会の盛り上がり
- 帰り道での近所の人々の声掛け
- 素直さがピカイチ
- いじめがない
- 学校行事に地域の人が参加してくれる
- 公民館などで趣味が同じ人が集まって楽しんでいる

その他の要望

- 遊ぶところが欲しい
- スポーツイベントが欲しい
- 犯罪ゼロの町

中学生の声

町の良いところを町民が理解して、町以外の人にも伝えられるような町にしたい。  
町の好きなお店 冬のスキー場  
今の加美町の点数は75点  
(鈴木 史花)

行事を増やし、地域の人とたくさん触れ合うことのできる町にしてみたいと活性化したいと思います。  
町の好きなお店 葉菜山  
今の加美町の点数は70点  
千葉 綾香

地域の方と接することができる行事を増やし笑顔で過ごせる町にしてみたいと思います。  
町の好きなお店 子供やお年寄りの笑顔  
今の加美町の点数は80点  
(小林 勇斗)

子供からお年寄りまでみんな笑顔で暮らせる町であればいいと思います。町の中の人、町の外の人もいい街だなあ、こんな町に住みたい」と感じられるような素敵な町にしたい。  
町の好きなお店 初午まつり  
今の加美町の点数は87点  
(千葉 琳香)

町単位で一つにまとまり自分たちの良さを思う存分PRし、町をどんどん活性化させる。  
町の好きなお店 広大な田んぼ  
今の加美町の点数は60点

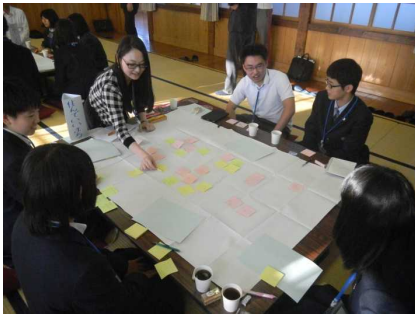
加美町全体で人々の交流がある町にしたいし、商店街やパッハホールとかもっともっと活用できる場所があるからそこを活用して人々があふれる町にしたい。  
町の好きなお店 パッハホール  
今の加美町の点数は89点  
(滝野澤 風花)

【概要】

高校生チームは「住んでいいまちになるには」と「訪ねていいまちになるには」という二つのテーマに関して話し合い、その結果、以下のような意見や提案が出された。

住んでいいまちでは、自然と一体となり、動物との共存し、食べ物がおいしい町というイメージのほか、町の歴史・文化を知る機会、進学先や幅広い就職先が確保されている町への関心が高かった。また、安心・安全で、高齢者と若者が仲が良く、商店街の賑わいがあるまちづくりが望まれている。

訪ねていいまちでは、おもてなしの重要性に関心が集まり、来た人が歓迎される町、再び帰ってきやすい町、何度も来たいと思える町のイメージのほか、有名なもの、特徴(外観的な)があるまちづくりや宿泊施設の充実、イベントの強化などを望む声が多かった。



気軽

にぎわう

満足

訪れて  
良い町

住んで  
良い町

〈おもてなし〉

- ・来た人が歓迎される町
- ・再び帰ってきやすい町
- ・何度も来たいと思える町

〈交通〉

- ・アクセスがもっと便利に

〈景観〉

- ・ゴミが落ちていない綺麗な町

〈有名なもの〉

- ・遊ぶところが多い町
- ・お店がたくさん
- ・有名なもの、特徴(外観的な)がある町
- ・イベントの強化
- ・学校などで町を訪問してもらう機会がある

〈宿泊施設〉

- ・宿泊施設の密集地がある町
- ・宿泊施設の強化

〈PR〉

- ・観光施設がもっとPRできれば良い
- ・ほかのコミュニティとの関わりをもち、来てもらうきっかけづくり
- ・PRの強化

〈自然〉

- ・自然と一つになった街
- ・動物と住んでいる人が共存できる
- ・空気がキレイな街

〈交通〉

- ・アクセスがもっと充実して欲しい
- ・アクセスに不便

〈文化〉

- ・自分の町に誇りがもてる
- ・加美町の文化・歴史を知りたい。知る機会がもっとほしい

〈行政〉

- ・行政に意見を訴えやすい

〈食〉

- ・食べ物がおいしい

〈未来〉

- ・進学先がある
- ・幅広い就職先がある

〈店・にぎわい〉

- ・住んでいる所で定期的にお祭り(イベント)がある
- ・にぎわう街、商店街
- ・人気のお店がある

〈安心〉

- ・交通事故が少ない
- ・高齢者にも安心な町
- ・子どもにも安全な町
- ・子どもが笑顔

〈コミュニティ〉

- ・高齢者と若者の仲の良い町
- ・挨拶の飛び交う街
- ・ご近所同士で協力できる街
- ・転居してもコミュニティに入るきっかけがある

加美町